

## わが国でのホームスタートの活動の様子

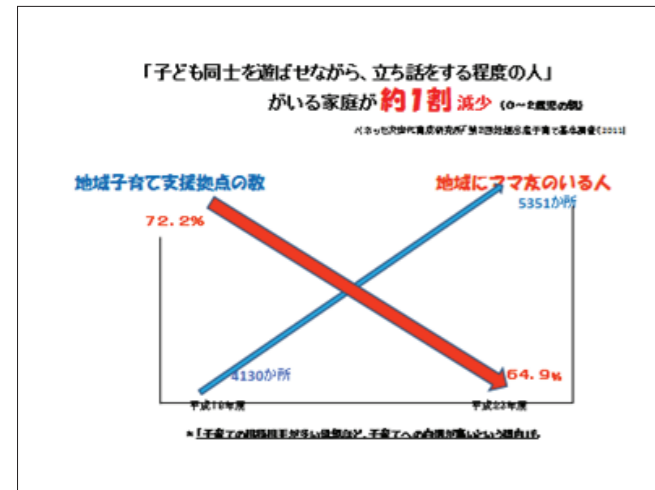
### —ホームスタートのこれまでと、今後—

西郷 泰之（NPO法人ホームスタート・ジャパン代表理事、大正大学教授）

ひと・まち社が2012年に行った「子育て力を豊かにするための支援の実態調査」では親の孤立を防ぐには訪問型の親支援が有効だと実感し、「ホームスタート」の可能性に着目しました。市民団体が取り組み始めたこと、またこのような支援活動が地域づくりにつながるのではと考え、「ホームスタートジャパン」について、ご寄稿いただきました。



#### 1 孤立する子育て家庭

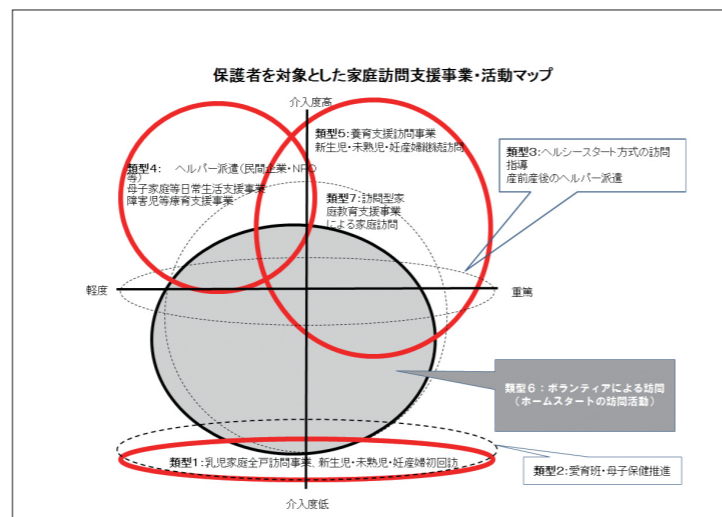


加型の子育て支援ボランティア活動とも言えます。ベビーシッターや家事代行とは違います。

訪問する家庭は、いわゆる虐待家庭ではありません。子育てへの元気を失いつつあったり、不安定になっていたりする家庭、つまり「気になる家庭」が支援の対象です。子育てが困難な家庭は最初から「子育て困難家庭」ではありません。「困難家庭」になる前には「気になる家庭」（高ストレス家庭）の状態があったはずで、こうした家庭への支援については、地域子育て支援拠点や保育所、保健センター、その他の子育て相談窓口などが対応しています。

しかし、子育て広場などの子育て支援拠点事業や相談窓口に出かけることができない人々にとっては、支援が届かないため全く意味がありません。ホームスタートは、こうした支援のすき間で孤立しがちな親子のもとへ支援を届ける訪問支援です。

子育て家庭を訪問する子育て支援ボランティアは「ホームビジター」と呼ばれ、40歳代から60歳代がほとんどです。多くは子育て経験のある先輩ママたちで、特別な資格は必要ありません。家庭の中での活動をより安全・安心に、家庭をエンパワメントし、そして高い効果が上がるものになるよう、地域活動団体が企画する「ホームビジター養成講座」（約40時間・8日間）を受けています。ホームビジターと利用家庭には「オーガナイザー」が調整役としてフルサポートします。



孤立した子育ては、現代のすべての子育て家庭が直面している問題です。それだけではありません。より孤立が深刻化する可能性が高い要因も増えています。例えば、全国の児童相談所や市町村に寄せられた児童虐待相談対応件数の増加をみると平成26年度は全国で約18万件となっています。児童虐待している家庭の多くは地域で孤立しています。

また、子育て家庭の貧困も大きな孤立要因です。全国の子どもたちの6~7人に一人は相対的貧困層であり、ひとり親世帯の場合はその半分以上が貧困になっています。貧困自体と貧困となる原因が孤立要因となり二重のストレスとなります。その他には知的障害児等が増加していることなども社会的排除というストレス要因となり孤立要因になります。その他、多胎児や多子家庭、健康を害している保護者や子どもなど孤立する可能性が高い子育て家庭は少なくありません。こうした孤立したストレスの高い子育て家庭へ出向いて（アウトリーチ）、積極的に支援を行う活動がホームスタートです。

#### 2 孤立した高ストレス家庭へ「出かけて行く」支援 —ホームスタート—

ホームスタートとは、イギリスで始まった訪問型子育て支援ボランティア活動です。「乳幼児が一人でもいる家庭」に、週1回2時間程度訪問し、共感的な傾聴と家事や育児を親と一緒にを行います。訪問して傾聴・協働する、市民参

#### 3 問題の発生予防が「空白」

孤立傾向にある子育て家庭に対して、訪問支援する積極的な行政施策や民間の取り組みも少しずつ発展しています。図の3つの赤丸がその軸となる施策です。乳児家庭全戸訪問事業等や、養育支援訪問事業、そして一人親など支援が必要な家庭への訪問等です。ただ、これらの事業だけでは支援の対象層を網羅することはできません。特に、問題が深刻化していない家庭で、少しの予防的な支援によって回復が期待される層が施策的空白部分となっているのです。つまり、グレーで着色した部分への支援が大きな課題です。

現在、ホームスタートの利用家庭は約8割がご自身で申し込んでいます。しかし、最初からホームスタートを知っている方はいません。保健師や保健センター、子育てひろばなどで紹介された方が4割ぐらい、チラシやポスターを見て申し込まれた方が2割強となっています。

#### 4 利用者の声

ここでは、ホームスタートの利用家庭や家庭を訪問し支援したホームビジター、そして関係機関の方の声の一部を紹介します。

★利用者による評価 — 「ママ友達に話せないような話をすることもできた」 —



利用者からは「子どもがよるこび家事も進んだ」「主婦のぐち、ぼやきに付き合ってくれました」「ママ友達に話せないような話をすることもできて私のストレスも大分ゆるやかになりました」などの声が多く、「必要としているお母さんたちがたくさんいると思います」との期待も寄せられています。

★ホームビジターによる評価 — 「人の役に立てる喜びを感じた」 —

家庭を訪問するホームビジターにとってもやりがいにつながる様々な出会いや感動があったようです。「待っていてくれる」「訪問させてもらえる喜び」「心の交流ができたような気がして心が暖まった」「成功感・達成感があった」「人の役に立てる喜びを感じた」などの言葉がアンケート上で多く見られました。

★行政（保健師）による評価 — 「既存のサービスの間隙を埋める活動」 —

保健師さんたちからは、行政や専門職ではないボランティアの訪問は、フレンドリーな関係が生まれるメリットがあり「既存のサービスの間隙を埋める活動」として評価を受けました。

#### 5 ホームスタートの7つの特徴

ホームスタートの歴史は1973年にさかのぼります。英

国で一人の主婦であるマーガレット・ハリソン氏（Margaret Harrison）が当事者性の高いボランティアでしか支援できない活動として、レスター（Leicester）州で始めたものです。



ホームスタートの創始者  
マーガレット・ハリソン氏

日本では、2006年にホームスタートの普及のための中間支援組織としてホームスタート・ジャパンが設立され、日本版にホームスタートシステムの変更を行い、全国展開を始めました。2016年現在では約90団体がホームスタートを始め、その中には生協が取り組んでいる例もあります。

ホームスタートには7つの新しい特徴があります。

- ① 子育て支援施策の狭間（ニッチ）を埋める支援
- ② 市民が参加・協力できるシンプルな活動
- ③ ボランティアの強みを生かした支援
- ④ 安全・安心な支援システム
- ⑤ 支援効果の高い活動
- ⑥ 県や市町村が協働している活動
- ⑦ 国からの事業費助成が得られる活動

#### 6 ホームスタートのこれから



わが国でのホームスタートの活動の様子

厚労省は2月20日の平成29年度全国児童福祉主管課長会議で、ホームスタートの活動事務費に補助する方向性を示しました。これにより市町村は民間団体が実施するホームスタートに対し補助することができます。市民が参加・参画しやすく、かつ安心安全で効果が高い支援を提供できるホームスタートは、今後の支え合いの地域社会づくりの有効な方法の一つです。ホームスタートという名称を使えるのは「乳幼児が一人でもいる家庭への支援」となりますが、この傾聴と協働を基本とした信頼関係に基づいた支援方法は、乳幼児の子育て家庭だけにとどまらず、学齢期や、障害児、外国人の子育て家庭への支援にも有効です。子どもと地域とのつながりを作り出し、加えて高齢者や障害者その他の孤立しがちな支援が必要な家庭への広がりも期待して行きたいところです。